

+++

せいりょう園

[発行] 社会福祉法人はりま福祉会 特別養護老人ホームせいりょう園

〒675-0016 兵庫県加古川市野口町長砂 95-20 TEL 079-421-7156 FAX 079-421-6422

平成24年 3月 第133号 年間購読料1,000円(1部100円)

メール seiryoen@bb.banban.jp ホームページ <http://www.seiryoen.or.jp>

今こそQOLを支える介護職に

3月1日に2市2町老人福祉事業協会の主催で『介護職員による痰の吸引等医療的ケアの実施』についての説明会を、県より担当係長にお出で頂いて開きました。各施設ともに関心が高く、18施設より48名が参加して熱心に説明を聴き、質疑応答にも熱が入りました。

喉を切開して気管カニューレが挿入されている方の痰の吸引と、胃ろうや経鼻経管で栄養剤を注入する行為とその方々の痰の吸引を、介護職が業務として行う為に制度が改正され、様々な細かい要件が示されました。

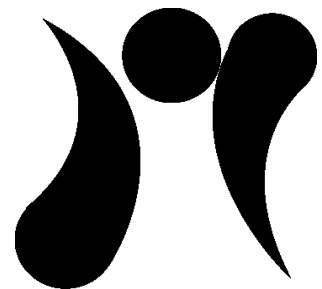
今までは『違法性阻却』の考え方にに基づき、ご本人やご家族の代替者として介護職が実施してきた行為を、医療行為として合法的に行う為に制度改正であり、医師の指示の下で看護と介護の連携を確実に行う為に様々な細かな要件が示された事や、特養ホーム職員に対する特例的な経過措置と特養以外の職員との違い等は概ね理解されたように思いますが、現場で起きてくる細かな事例への対処について、多くの職員が疑問を残しているようにも感じました。

違法性阻却＝違法性を問わない形で行ってきた痰の吸引を、医師の指示に基づく合法的な医療行為の一端として介護職が行う時、結果に対する責任が今まで以上に強く問われます。業務として行う以上、業務上過失傷害や過失致死に問われる可能性を覚悟しなければなりません。

同時に一方で、人生の最終章完結編を生きる高齢者の命を、胃ろう・気管カニューレ等の装置と痰の吸引で支える時、支える命の質＝QOLについて深く考え、思想や理念を持って関係者と話し合う責任も生じます。職業倫理です。

生身の身体が老いて生身のままに自然に生命が尽きる時、痰を吸引する必要な状態はめったに起こりません。最期の日まで意識があり、眠ったままに穏やかに生命活動が完結する姿を数多く看取りました。生活を共にした関係者の安堵感に満ちた心の中に、様々な思い出が鮮烈な記憶として刻まれ、永遠の命となって次の世代に引き継がれます。思想が生まれ、縁がつながって行きます。

(次ページへつづく)



(前ページのつづき)

生身の身体には本来備わっていない胃ろうや気管カニューレ等の装置で老いた命を維持するとき、遺伝子情報にはない状態に遭遇した身体が敏感に反応し、全身的に様々な症状が現れ、解熱や痰の吸引などの医療処置に追われます。解熱も吸引も根本的な改善にはつながらず、不自然な姿での衰弱が続く、生活者としての縁が薄れていきます。そして何より、QOLを問い生命の完結を受け止める思想が生まれません。

最近、天皇陛下の心臓バイパス手術に際して、陛下のQOLを考えて決めた治療法であると発表されました。東日本大震災1年後の3・11を控えて、ご公務への復帰を強く望まれた78歳の陛下の意図を汲んでの配慮です。QOLの大切さを再認識する大きな契機になりました。

2月3日の読売新聞に『胃ろう』についての記事が載っています。東大特任研究員・会田薫子氏によれば、欧米では否定的な見方が主流であり、『がんの終末期と同様、認知症の終末期も、水分や栄養はあまり与えないほうが患者にとって苦痛が少ない。米国では、少なくとも認知症末期の患者に対する胃ろうなど人工栄養補給の効果はないというのが定説だ』と話されています。

超高齢社会を迎えるこれからの日本では、高齢者のQOLを支える医療と介護が最も重要な課題です。高齢者には、次の世代に社会を引き継ぐ重要な役割＝公務があり、其処にQOLが存在します。長く生きて、役割を果たせなければ、QOLが高いとは言えません。老いた命の果たすべき役割について、そして命の質を測る物差しについて、医療・看護・介護が連携してご家族と話し合い、協働して支える体制が求められています。

業務上の過失責任を強く問われる職業人として、技術を磨き責任を覚悟すると同時に、職業倫理に基づく役割と責任を強く自覚したいと念じます。ご利用者のQOLについて深く考え、ご利用者やご家族が命の質を測る主観的な物差しを創る際に、信頼に足る意見を言い、その根拠となる思想や理念を伝える事のできる介護職でありたい、と心より願います。

介護職がご利用者のQOLについて信頼に足る意見を伝える現場が増えるとき、高齢者の医療と介護の実態が大きく変化し、社会も大きく変わるように思います。日本老年医学会の『立場表明』や石飛幸三先生の『平穏死のすすめ』などの影響で、徐々にその環境が整いつつあるように思います。最近当施設で最期を迎えられたご利用者のご子息より、初めて直面する親の最期に戸惑う心を職員の言動に支えられた、とのお話を頂きました。

この度の制度改正が介護職の背中を押し、介護職がリードしてお年寄りのQOLを問いかけ支えて、超高齢社会が幸福度の高い超幸福社会になる途が開ける事を願います。今こそ、介護職の頑張りどころです。

せいりょう園 渋谷 哲

せいりょう園 待機者状況 <平成24年3月15日現在>

○入所判定済み者 399名 (グループの内訳)

Iグループ…127名 IIグループ…159名 IIIグループ…113名

○入所判定済み者の現在状況

在宅170名/特別養護老人ホーム入所中13名/医療機関入院中111名

老人保健施設入所中83名/ケアハウス入居中4名/障害者施設1名

グループホーム入居中12名/所在不明5名

○辞退その他 他施設入所1名/死去3名



ダイエットについて

ダイエットの意味は、単に目方だけを減らすということではなく、健康に向かって体重を減らしていくこと、つまり太っている人の体重を減らしていくと、より健康になるからそれを目指して生活も変えていこうというのが真の意味でのダイエットなのである。

言うまでもなくダイエットは食事と大いに関係する。食べた物が余った時それらは脂肪という物質になって体内に貯蔵される。この脂肪は飢饉などで食べ物がなくなった時、これを放出して飢えを凌ぐ為に使用される重要な物質となるのである。このように脂肪は人間の生命維持にとって非常に重要な役割を果たす一方で、これが増えすぎると糖尿病や高血圧症などの厄介な病気を引き起こすことにもなりかねない。

それでは、どんな人にダイエットをさせるのが良いかと言えば、BMIが25以上の人の全て、そして特にやらなければならない人は、お腹周りが男は85cm、女は90cm以上、血糖値が110mg以上、血圧が上130、下85mmHg以上の人が対象となる。

一般に脂肪が増えすぎると、血流を阻害したり、糖尿病を起こしたりして身体に害毒を及ぼすことになる。つまり、脂肪細胞が病気を作り出すことになる。

ところが、これらの値はダイエットを始めると間もなく必ず下がってくるから、根気よく実行すればいろいろな数値のすべてに好影響を及ぼしてくる。ちょっとダイエットするだけで、驚くほど大きな効果が出てくることがわかる。

ダイエットは言うまでもなく食事と運動が基本になる。そして、これらは各人毎に異なっており、各人毎のプランが必要となる。しかし、あまり窮屈なプランは長続きし難いから、せいぜい3項目程度、例えば散歩をしたとか、油物は食べなかったとか、早寝をしたかなどを自問し、丸印をつける程度で良いのではないか。

このように目標が実施出来た時丸印をつけていけば、丸印が増えると体重は減ってくる。もしやむを得ない事情によって食べ過ぎた日があれば、その翌日もしくは数日の間で調整すれば良いではないか。

ダイエットが進んでいくと、身体が軽くなったと感じるほか、先ほどの値はみんな良くなっており、5%の減量で大きな効果があったことを実感すると思う。

ダイエットとは、単に目方を減らすだけではなく、それと同時に健康な身体になることである。その為には各人に適した長続きする無理のないダイエットプランの作成が望まれる。

最後に体重測定について、体重は一日に朝と晩で1.0ないし1.5kg位変動し、夜の方が重くなる。それ故に毎日朝と晩に測定し、朝の値同志、または晩の値同志を比較するようにすれば、より正しい評価が得られるであろう。皆様、どうぞお試し下さい。

ケアハウス等空き情報 [平成24年3月15日現在]

《ケアハウス》

・ 恵泉	: 1人部屋若干	・ 第二ケアハウス恵泉	: 1人部屋若干
	: 2人部屋若干	・ あさなぎ	: 1人部屋2室
・ サラワ御立	: 1人部屋2室	・ 青山苑	: 1人部屋2室
・ ケアハウスアペリア	: 1人部屋5室		: 2人部屋2室
・ 志深の苑	: 1人部屋1室	・ 清華苑ツバキ	: 1人部屋1室
・ シスナブ御津	: 1人部屋1室	・ サリットひまわり園	: 1人部屋1室
・ キャッシル真和	: 空室あり	・ せいりょう園	: 1人部屋2室

《バリアフリーマンション》 リバティかこがわ 3室

[問合せ先] せいりょう園介護相談室
Tel(079)421-7156/(079)424-3433



介護についてみんなで語ろう会

テーマ「災害時の備えについて」



せいりょう園老人介護支援センター
社会福祉士 吉田 知一

3月11日で東日本大震災から1年が経ちました。この震災から様々なことについて考えさせられました。そのうちのひとつが「津波てんでんこ」という言葉です。「てんでんこ」は東北の方言で、「各自」「めいめい」という意味になります。それぞれ「津波が来たら、取る物も取り敢えず、肉親にも構わずに、各自てんでんばらばらに一人で高台へと逃げろ」「自分の命は自分で守れ」と、一人ひとりが自分を守ることで出来るだけ多くの人間が生き延びることが出来るように、という防災教訓だそうです。一見、家族や他人を見殺しにしているように見えますが、「きっとあの人なら逃げている」と、本当の意味で信頼している、尊重しているからこそ出来る行為ではないでしょうか。この伝承は、大自然の脅威から学んだ、生き延びる為、命を受け継ぐ為の人間の知恵なのだと思います。

一方で、津波の犠牲者の中には、地震が起き津波が到達する30分の間に介護の必要な高齢者や障害者、子供などを助けようとして引き返し、津波に巻き込まれたケースもあると聞きます。津波に巻き込まれた特養でも職員がバスで利用者を高台に送迎中に波にさらわれてしまったニュースを聞きました。

この「津波てんでんこ」の伝承が成立したのは、1896年（明治29年）に発生した明治三陸地震まで遡るそうです。当時は高齢化率も低く、平均寿命も50歳前後だったそうです。しかし、現在では高齢化が進み、四人に一人が高齢者となっています。「津波てんでんこ」の教訓を活かしながらも、災害の備えとして私たちがすべきことについて話し合いました。

福祉避難所

阪神大震災や今回の震災の教訓から「福祉避難所」の設置があります。福祉避難所は、災害が発生した時に避難する、公会堂や学校体育館などでは生活に支障が生じる可能性のある障害者や高齢者、妊産婦、病弱者らの避難場所です。たくさんの避難者が混雑する中、不安と苛立ちの中での生活で、認知症を患っている方や介護が必要な方への配慮までは出来にくいものです。また、介護が必要な方が生活できるようなバリアフリーの環境にはなっていない場所も多く、車椅子や身体障害者の方は生活しにくいのが現状です。

避難所は、仮設住宅や他の避難場所に移るまでの一時的な避難である、といってもその場所で何日か生活をしなければなりません。地震が引き起こす震災は、電気、水道、ガスなどのライフラインが途絶えてしまう可能性があり、福祉避難所として適しているとされる場所は、そういった状況下においても独立して稼働出来る場所が望ましいといえます。また、食料の供給が絶たれた場合でも何日間かの蓄えや、バリアフリーの設備が整っている寝起き出来る生活空間が必要になります。そこで思いつくのが、特別養護老人ホームなどの入居施設やデイサービスなどの通所施設です。特に、老人ホームは居住空間なので、要介護状態の方が生活しやすい環境が整備されており、避難生活をするのには適しているといえます。

このような形で社会福祉施設を福祉避難所に指定する動きが、兵庫県内でもあります。加西市は、災害時に支援の必要な障害者や高齢者らを受け入れる福祉避難所として、市内15か所の社会福祉施設が利用できる協定を結んでいます。付き添い家族を含め10人程度の受け入れをお願いしているそうです。

加西市で福祉避難所に指定された主な施設

施設の種類	件数
特別養護老人ホーム	3
介護老人保健施設	2
介護療養型医療施設	1
デイサービスセンター	2
グループホーム	1
小規模多機能型居宅介護事業所	1
障害者支援施設	2
その他の公共機関	3



「福祉避難所」兵庫県内で13市町が未指定

一方で兵庫県内41市町のうち少なくとも13市町で指定されていないことがNPO法人兵庫障害者センターのまとめで分かっています。同センターは昨年11月から各自治体にアンケートを実施。アンケートでは尼崎、相生、加古川の3市と神河町が「未指定」と回答しているそうです。加古川市には福祉避難所がまだ指定されていないようです。

感想

社会福祉施設を福祉避難所に指定することは良い考えだと思いましたが、東日本大震災級の大きな災害の前では、入所している利用者や介護職自身も被災している可能性が高いと思います。期待以上の効果は出来ませんが、一時的避難所の機能は果たせるのではないかと考えています。

もし、福祉避難所が指定されるのであれば、介護職としての災害時の職業倫理について、それぞれの施設で考える良い機会になるかもしれません。



第19回 木野雅之ヴァイオリン・リサイタル

日時：平成24年6月2日（土）

開場 18:00

開演 18:30

会場：リバティかこがわ2F

加古川市野口町長砂95-2

交通：JR加古川駅か東加古川駅より

ゾーンバス「長砂公民館前」

下車すぐ

駐車場有り

料金：4,000円（予約不要）

休憩時間にドリンクサービス

があります。



PhotoByMr.KazuyaAkashi



手作りおやつ

デイサービスでは、少しでも利用者の皆様に喜んでもらえるようにと、去年の11月から調理員がおやつを手作りしています。

そこで、今回その幾つかを職員のコメントと共に紹介したいと思います。利用者の皆様には「おいしい!」との言葉も頂いており、これからも美味しく、目でも楽しめるようなおやつを作っていきたいと思ひます。



H23.12.12 イチゴいっぱいロールケーキ



↑イチゴ模様がかわいくできました。

H23.12.16 イチゴのケーキ



↑スポンジ焼き具合が不安でしたが、やわらかく出来て良かったです。

H24.1.18 バナナパンケーキの
フルーツ添え



↑バナナを生地に練りこみました。バナナの甘みとしっとり感が出て、良かったです。

H24.1.26 パンダ饅頭



↑蒸す途中で顔の表情が変わったのでちょっとハラハラドキドキしましたが、かわいく出来て良かったです。(ホットケーキ MIX とココアの生地と餡子)





講師 教信寺 法泉院
長谷川慶悟住職

デイサービス 谷澤 高明

今月の仏教講話は天台宗教信寺 法泉院、長谷川慶悟ご住職に来て頂いた。これまでも两三度来て頂いている。時候の話から始められた。今年の冬の寒さはことのほか厳しかったこと。その為各地で雪による被害が発生し、少なからぬ犠牲者が出ていること。それに引き換えここは気候も大変温暖で、大きな災害に見舞われることも無く、平穏な生活を送ることが出来る。僅か70~80km離れた県北では、雪による被害と生活上の困難さを耳にする。この地の有難さが身にしみる。ここで「昔から『東北の男と播磨の女が寄り添うと上手くいく』と言われていました。朗らかで角がなく、優しい播磨女と、辛抱強くしっかり者の東北男のカップルです。」私事で恐縮ですが、我が家はまさしく『東北女と播磨男』の逆の組み合わせなのですが？失礼しました。結果はご想像にお任せします。

ご住職は最近Facebook(フェイスブック)を始められたらしい。これは『実名でインターネット上で知り合った友達と交流をするサービスネットワークで、現在8億人以上のユーザーがいるとされている』。忽ち世界各地に1,800人も友達が誕生してしまったとか。そして当然のこととして、皆先の東日本大震災への関心が強い。地図で見る程度にしか日本に対して理解を持たない人たちにとっては大地震、津波と原発事故で日本全土が壊滅的な被害を受けているかに感じている人が多い。従って大部分の新しい友達が「あなたの所は大丈夫か？被害の程度は？」と問い合わせが来る。と同時に震災直後の被災者の態度、対応に大きな衝撃を覚えているらしい。震災直後の食糧配給にきちんと整列して待つ被災者たちの姿。多くの国ではとても考えられないという。その後も流出していた5,700個の金庫や23億円の現金が警察に届けられ持ち主に返却されたことなどが驚きをもってとらえられている。また、それらのニュースが海外

メディアによって詳しく、畏敬の念をもって報じられているらしい。海外の人たちから見たらとても信じられない現象で、『すべての日本人は御仏の心を持っている』とその精神を称えられているようだ。阪神大震災の時も皆で助け合った。「自分だけ良ければ良い」では済まされない。「皆が良くなければならない」これが日本人の魂、体質である。悲惨な戦争を経ながら守り続けた日本人の心、文化、歴史、伝統の素晴らしさを感じずにはいられない。これまで育んできたこの素晴らしい伝統を今の若い人たちが受け継いでいけるのか？危ぶむ人もあるが、ご住職は「日本人の心の中には仏の心が宿っているから大丈夫」と言われる。

もうすぐ教信寺の桜の開花時期を迎える。樹齢は100年近く、特に参道両サイドの桜は見事だと言われた。桜も若木の間は花と葉が同時期に開き、あまり美しいとは言い難い。しかし年輪を重ねた桜は人間も同じで、実に美しい。これを守っていくには桜は手入れ、人は一生懸命勉強することが必要である。人も昔は『第六感』のままに生きてきた。『鮭』や『蝶』や『鳥』が誰から教わることも無く、生きて成長して生誕地に帰り子孫を残すように。ところが『第六感』のままに生きていけなくなった現代、「人は一人ではなく皆の中で生かされているんだということが大事で、何を目標に生かされているのか？」を勉強する必要が生まれた。それは生きる為の目標を持つことであり、生きる為の道徳を学ぶことである。お釈迦さんの言われた一番大切な事は『命の尊さ』である。これは勿論人間だけの命を指すのではない。動物、植物生きとし生けるもの全てに通ずるものである。

最後に「このような豊かな心を持った日本人の精神を次代、末代へ是非伝えていくよう心掛けて下さい。その時決して怖い顔をしないで下さいよ。優しい顔で仏さんの顔でお願い

いします。」お布施の話になる。「お金や値打ちのある物品を与えるだけがお布施ではありません。いつもなごやかで穏やかな顔つきで人や物に接する和顔施(わがんせ)、優しい言葉、思いやりのある態度で言葉を交わす言辞施(ごんじせ)も布施です。フセは布施と書きます。文字通り「布」を「施す」ことから来ています。民は、貧しくてお礼に着物を差し出すことが出来ずその一部を提供した。僧侶は頂いた沢山の布きれを縫い合わせて袈裟を作ったのです。

インドに生まれ、中国を經由して日本に伝わった仏教。今では両国では仏教は盛んではありません。仏教を通じて得た日本人の精神、知恵を今こそ諸外国に戻し、あるいは知らしめる時ではないでしょうか。皆さんは皆さんの知恵、経験を広く伝えてほしいものです。その為にも健康に留意され、この世の極楽浄土を満喫して下さい。また、機会があればお会いしましょう。」

いつもながら快活で、沢山の勇氣と元気を頂いた充実のひと時でした。有難うございました。



第5回グループホーム・小規模多機能ホーム運営推進会議の報告

日時：平成24年1月28日（土）14：00～16：00

[意見交換]

- ・命の長さより命の質を家族に伝え、死を目前にしてどう生きるか、静かに死を迎えられるよう話し合うことが大切
- ・主人が病気になってから一日一日をどう生きるか考えるようになった
- ・息子と二人暮らし、ガンになったら告知して欲しい、延命治療はして欲しくないと頼んでいる。母親が最期まで自宅で過ごしたことは良かったと思う
- ・家族と胃ろうについて話し合った。ここで勉強したことを話し、胃ろうはしないという結論に達した
- ・死が予見できるガンという病気が、人生をより深めてくれる
- ・母親が入院してターミナル期の家族の思いが実感としてわかる、気持ちが揺れ動くのが解る
- ・人間らしい最期、その人らしい最期、生き方を家族・看護介護職で考えていかなければならない
- ・夫婦で話し合い、胃ろうはしないと決めた
- ・人類にとって死は革命だ、死によって新しいものが生まれる
- ・死については普段は考えていない、他人ごととして受け止めていた。死は受け入れるけれど準備はしていない
- ・最期までその人らしく、自分の意志や思いを貫き通せたらいいなあと思う
- ・死を想いながら今を生きる。亡くなる前までバランスよく命が尽きる。自然に亡くなっていくと眠るように終わる。死を想いながら今何をしたらよいのか、意思表示が必要である。命の長さに命の質が伴っているか？日本は命の長さだけを追い求めている。死を避ける行為だけで死と向き合うことが出来ない。死を取り去ろうとする医療・介護がいいのか、死を深く考えた時に正しい判断ができる